



第四十五号

「追悼 唯是震一（下） ～名曲十選～」

メルマガnoichi45号、今月は先月に引き続き、唯是震一師の追悼号とさせていただきます。

91年の生涯で実に600曲以上を残した偉業。

今回はその中から、奥田雅楽之一が孫の視点で「名曲十選」をさせていただきました。

唯是震一名曲十選

『神仙調舞曲』

唯是作品の中で最も親しまれる独奏曲。従来の箏曲の調子（音階）、技法が存分に活かされています。この曲の大きな特徴は、伝統的な手法が多く使われていることと、箏の奏法ならではの上下行を巧みに繰り返すこと。シンプルな旋律が浮かび上がります。私が初めてこの曲を演奏したのは、祖父に所縁ある埼玉県飯能市でした。歌舞伎役者の市川春猿丈と共に演じた際に、祖父の承諾を得て舞台上に掛けました。祖父の演奏は実に生田流らしい弾き方でした。それは宮城道雄先生の影響が大きいと考えられますが、こと爪の角で糸を弾（はじ）くように、動きに無駄のない合理的な演奏法を身に付けていないと、この曲は容易に演奏できるものではありません。

収録CD：箏・三絃 古典／現代名曲集（四）

『松虫』

音楽人・唯是震一の結晶ともいうべき作品。祖父の残した全六〇〇余曲の作品の中、私が一番好きな曲であります。曲の編成、構成、旋律、手法、いずれも古典作品の基礎を踏まえたものでありながら、抜群のセンスによって現代風の手事に仕立て上げられています。この曲に関するエピソードは沢山ありますが、家族で最も共演した曲であり、祖父にとつて最後の舞台となった平成二十六年十月に演奏したのも、この曲でした。

収録CD：箏曲名作選（十）唯是震一

『三曲第一番』

唯是震一作曲法の特徴であるポリフォニー（多声音楽）が最高の形で実現された一曲。夫人・中島靖子も傑作中の傑作と賛辞を惜しみません。三弦、箏、尺八、いずれも非常に高い技術が求められます。尺八の大甲（だいかん）と呼ばれる

減多に使われない高い音が二箇所ほどあり、技術の向上が著しい現在の尺八演奏家をも困らせています。特筆すべきは初演の三弦演奏者が沢井忠夫先生であることでしょうか。

収録CD：箏曲名作選（十）唯是震一

『石狩川』

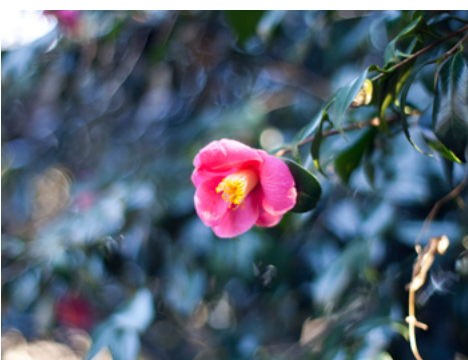
唯是作品の中で最も長大な作品。春夏秋冬の四部がそれぞれ複数の組曲から成り、作曲者の出身地である北海道の大自然や民族文化を音楽によって見事に描写した作品。大編成でありながら再演数が多いのは、それだけ演奏者に好まれているということでしょうか。祖父自身が主催する昨年十一月の作品演奏会のリハーサルで同曲が演奏され、祖父にとつてそれが最後に観た（聴いた）舞台となりました。その際、客席最後列にいた祖父から舞台上の出演者へメッセージを残し、祖父は静かに入院先の病院に戻りました。

「よく勉強してくれて、みんな、ありがとう！」

『信楽狸』

一度聴いたら忘れられない特徴的な曲調、メロディ、リズム。戯けた狸の様子が明るい名曲に化けています。二〇一三年に開催された正派創始百周年記念演奏会で作曲家自身が渾身の独唱を披露し、聴衆ならびに出演者の涙を誘いました。ところでこの曲には打楽器が入りますが、私はいつも信楽狸の打楽器の担当と

なっており、全国津々浦々で大小二つの木魚を元気に叩かせて頂きましたが、思い起こせば私の木魚デビューはアメリカ公演。どうい



けて、中には「楽器を何年間勉強しているのか」と聞いてくれた人もいましたが、それがたった二週間であるという事実は、どうい言えませんでした。

収録CD：箏・三絃 古典／現代名曲集（二十四）

『雪人形』

三弦の弾き歌いに、胡弓の哀愁ある旋律が溶け合う古典的な作品。胡弓が尺八に代わることもあります。この曲も、古今東西沢山のコンピによって再演されましたが、作曲家自身が演奏し、私の恩師・森雄士先生の胡弓伴奏による雪人形は未だに理想型とされており、それを越えるような名演奏が待たれます。私も一度だけ森師と共に演奏させて頂いたことがあるのですが、祖父がその時の私の演奏に対し「よく練習してるけど、それ以上のことはない」と言われたショックが、今でも時々思い出されます。

収録CD：箏・三絃 古典／現代名曲集（九）

『楊貴妃』

主演／坂東玉三郎、作曲／唯是震一、作詞／夢枕獯、振付／梅津貴昶によって生み出された作品。初演は一九九一年、熱海のMOA美術館内にて。現在では玉三郎丈の代表作となっており、唯是震一が残した大きな偉業となっています。また、親交のあった玉三郎丈から告別式で弔辞を賜りました。

「果てしない宇宙のどこかでまたお目にかかれたらと思いません」
あの時大きな感性で遺族を包んで下さった師には、言葉では言いきれない感謝の気持ちを抱いています。

『箏のための協奏曲第二番』

作曲家は協奏曲を全部で十八曲書いていますが、中でもこの第二番は傑作とされています。合奏群はオーケストラ版に

も編曲されており、国内外で多数再演されている日本人作曲家の協奏曲として音楽史に刻まれることでしょう。祖父自身も特にお気に入りの曲であったようで「カデンツァの弾き方を教えてあげるから」と情熱的に教えてくれたこと、合奏群パートを歌いながら私をソリストに見立ててお稽古してくれたこと、思い出すと胸が熱くなります。

収録CD：箏・三絃 現代名曲集（十一）

『箏と尺八のための協奏曲第三番』

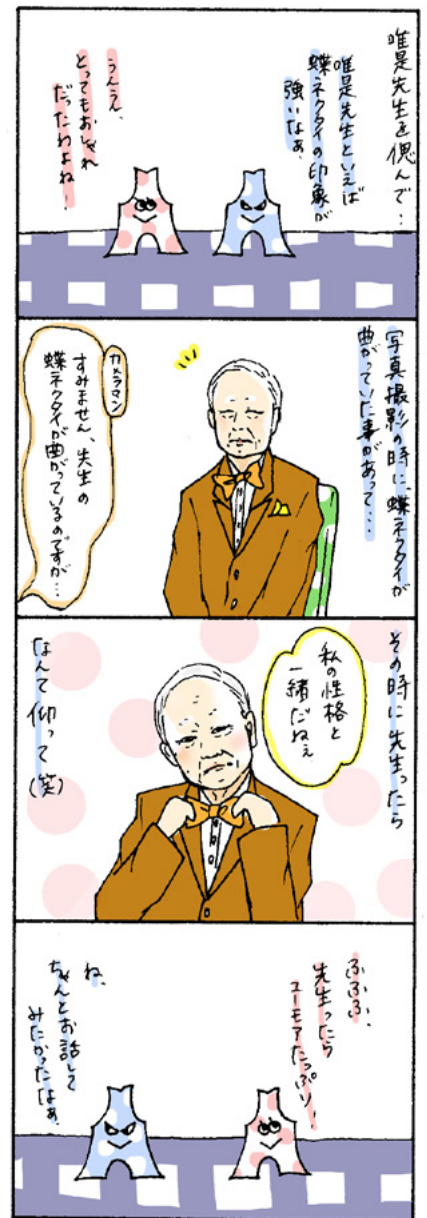
題名の通り、箏と尺八のために書かれた協奏曲。何と言っても二楽章の琉球音階の調べが最大の聞きどころでありましょう。若かりし頃からの師弟関係でもあり、盟友であった故・山本邦山先生とのコンビで数多く演奏されました。邦山先生の才能は唯是震一によって見出されたことは割と有名な話ですが、二人の出会いが半世紀以上前大津市の演奏会にて。邦山先生が十七弦の調弦をしていたところ、側にいた祖父が音感の正確さに「この子凄い」と思ったのが第一印象であったそうです。ここ一年のあつという間に両師共に旅立つてしまったことは、本当に惜しまれます。

収録CD：箏・三絃 古典／現代名曲集（十一）、唯是震一 協奏曲を弾く

『遠野』

柳田国男の遠野物語を題材とし、唄と三弦のために書かれた作物（おどけ物とも言うって、古くから伝わる劇的な三味線音楽）風の作品。ところで、唯是という苗字は珍しく、ある日ひょんなことから唯是のルーツは岩手県遠野市にあると分かり、それから祖父は同地を第二の故郷として敬愛し、所縁を深めました。一九七五年には同市への貢献が認められ、遠野市から名誉市民の称号を与えられました。今日では祖父の尽力により、遠野市内のお寺に唯是家の先祖が奉られています。

収録CD：箏・三絃 古典／現代名曲集（十一）



唯是震一先生、バリエーション福とお祈り小川山阿
Illustration: morimoe

「音楽と建築」邦楽と駒井家住宅

日時：三月八日（日）＊開場は各二〇分前

第一回 十一時

第二回 十四時（完売）

第三回 十六時

会場：駒井家住宅（京都市左京区）

料金：二千円（小学生以下無料）事前予約制

出演：奥田雅楽之一・神令他

主催：NYC 後援：正派邦楽会

また、当イベントのプレコンサートも開催いたします。

「音楽と建築」プレコンサート

日時：三月七日（土）十五時開演（十四時四十分開場）

会場：池坊短期大学内 洗心館一階「悠々」

料金：二千円（当日二五〇〇円）

イベント詳細はこちらでご確認くださいませ。

<http://www.utanoichijp/15komai.pdf>

◎あとかぎ◎

年に一度、九州の実家に帰ったときに近所を散歩すると、大工の棟梁だった祖父が作ったという建物がまだ数件のこっている。その質実剛健な建物には人柄が現れていて、忘れていた祖父との会話を思い出すことがある。

木から落ちた後など「腰が痛か」と言うと、「たかちゃんはまだこまんかけん、腰はなかるうもん」と笑って、子どもには腰がないと言いつ張った。確かに明治生まれで大工の祖父の足腰は頑丈で太くて、子どもとは比べ物にならない様子だったけれど、どうもそういうことではなさそう。祖父の言う腰がどういう意味なのかずっと分からなかったのだが、「腰のすわった人」という言葉を何かで読んだときに、もしかしたらこのことかもしれないと感じた。肉体的な意味だけでなく、精神的にも腰がすわった人が大人だと、昔の人は思っていたのではないか。

そういう意味では「腰のすわった人」は少なくなってきた。明治、大正、昭和、平成と、人が子どもっぽく、見た目も薄くなって行くのは一体どうしたことだろう。祖父が生きていたら「たかちゃんは五十過ぎてやっと腰ができた」と言ってくれるだろうか。

グラフィックデザイナー (http://www.1938.jp) みやはらたかお

